

製品名: Dab1 (リン酸化 Tyr232) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04534**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	DAB1
別名	DAB1; Disabled homolog 1
遺伝子 ID	8674.0
SwissProt ID	O75553
免疫原	抗血清は、ヒト Dab1 の Tyr232 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 199-248

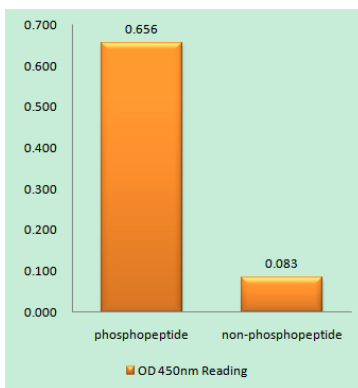
背景

大脳皮質における複数のニューロン型の層状構造は、正常な認知機能に必須である。マウスにおいて、disabled-1 遺伝子は脳の発達

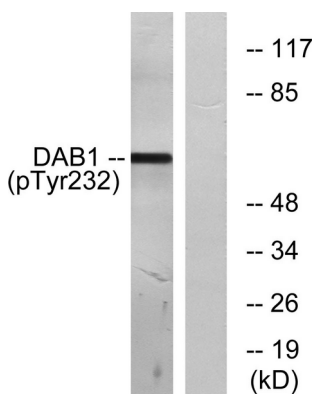
において中心的な役割を果たし、皮質ニューロンが既に形成されたニューロンを通り過ぎて適切な層に到達するよう誘導する。この遺伝子は disabled-1 遺伝子と類似しており、この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質キナーゼ経路と相互作用して発達中の脳におけるニューロンの配置を制御するシグナル伝達因子であると考えられている。この遺伝子の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されているが、その全長は明らかにされていない。[RefSeq 提供、2008年7月]、ドメイン：PID ドメインは、多くのチロシンリン酸化タンパク質に見られる Asn-Pro-Xaa-Tyr(P)モチーフに特異的に結合する。機能：神経発達において機能するアダプター分子。SIAH1 の活性を制御する可能性がある。、PTM：胎児ニューロンにおけるリーリン誘導時に Tyr-198 および Tyr-220 がリン酸化される（類似性による）。また、リーリンシグナル伝達とは独立して Ser-524 がリン酸化される。、類似性：1つのPID ドメインを含む。、サブユニット：SRC、FYN、ABL のSH2 ドメインと結合する。DAB2IP および SIAH1 と相互作用する（類似性による）。LRP1 と相互作用する。、

研究分野

画像データ



Dab1 (リン酸化 Tyr232) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Dab1 (リン酸化 Tyr232) 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。